



NEW /

福商 歴史・文化シリーズ

ふくおか史の博士になろう

Vol.1

福岡商工会議所は

「歴史・文化を活かしたまちづくり」に取り組んでいます！

昨今、福岡市では、天神ビックバン・博多コネクティッドによる再開発でハード面の整備が進み、都市機能の向上や企業の誘致など、堅調に経済の活性化が図られています。さらに、新型コロナが5類感染症に移行し、再び国内外から福岡市に観光客が訪れるようになりました。

旺盛なインバウンド需要を持続的に取り込み、将来にわたって魅力的な都市であり続けるためには、今こそ地域の歴史・文化的資源の価値を見直し、誇りをもって世界にアピールできるまちづくりが大切です。そのためにはまず、市民一人ひとりが郷土の歴史・文化に親しみ、郷土愛を育むことが重要です。当所では、こうした取組みの一環として、福岡市経済観光文化局文化財活用部と連携し、本誌で新しく「福商 歴史・文化シリーズ」をスタートしました。

この誌面では、身の回りにある歴史・文化を知り、親しんでいただくことを目的に、福岡市の歴史・文化、関連イベント情報をご紹介します。

※この誌面は、福岡市経済観光文化局文化財活用部提供の資料やデータをもとに作成しています。

徹底解説

福岡市にはどのくらい文化財がある？

福岡市は、玄界灘を通じた対外交流によって古くから多様な歴史・文化が重層的に形成されてきました。例えば、古代の稲作伝来に関する遺跡や豪族たちの古墳、外交の要であった鴻臚館をはじめ、中世の国際貿易拠点としての寺社文化や元寇防塁、福岡城跡、近現代の商人・武家文化の融合による“福岡市”の誕生など、2000年を超える歴史的資源があります。現在、国や県、市から指定・登録されている文化財が500以上もあり、市内のほぼ全域に分布していることをご存知ですか？

そもそも文化財とは、文化財保護法などをもとに6つの分類・2つの保護対象として区分され、一般的に指定・登録を受けたものを指します(図1)。

一方で、福岡市では、時代や社会の変化とともに市民が後世に残し伝えていきたい文化財の範囲が広がることを想定して、文化財を指定・登録の有無に関わらず「歴史や文化等の理解に必要なすべての文化的所産(福岡市文化財保存活用地域計画より)」と定義しています。そして、市内の文化財を「跡地や自然などの「ばしょ」、美術工芸などの「もの」、食文化や祭りなどの「いとなみ」の3つのカテゴリで整理しています(図2)。

文化財	有形文化財：建造物や工芸品、絵、彫刻、歴史資料など
	無形文化財：演劇や音楽、工芸技術など
保護対象	民俗文化財：衣食住や慣習、民俗芸能、祭りなど(祭り等の衣服や器具含む)
	記念物：史跡、庭園などの名勝地、動植物の天然記念物など
	文化的景観：人々の生活や地域の風土によって作られた景観地
	伝統的建造物群：伝統的な街並みなどが残る建物群
保護対象	埋蔵文化財：土地に埋蔵されている文化財
	文化財の保存技術：文化財の保存に必要な不可欠な技術または技能

図1：一般的な文化財の捉え方

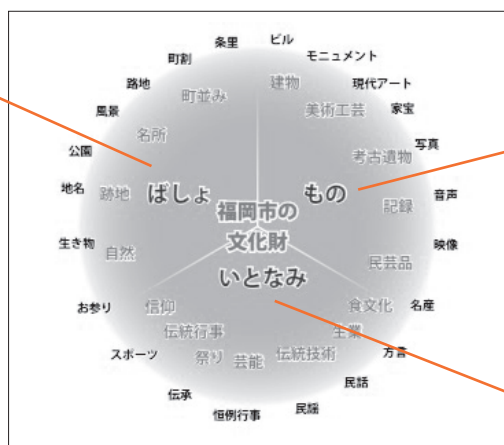


図2：福岡市文化財保存活用地域計画での文化財のカテゴリ



元寇防塁が見に行きやすくなった?!

生の松原地区(西区)の元寇防塁は、長垂海岸から小戸海岸にかけて残る約2.5kmの防塁で、一部は当時の高さに復元されています。この防塁は、九州各地から人が動員され、約半年で築かれました。

令和5年4月、駐車場とトイレがオープンし、利便性が向上しました。ぜひ、おでかけください。



▲整備された駐車場とトイレ

博多どんたくの起源は文化財?!

福岡市民の祭り振興会(当所事務局)が主催する「博多どんたく港まつり」の起源は、治承3年(1179年)に始まったといわれる「博多松囃子」とされています。どんたくパレードの幕開けを飾る博多松囃子も、身近にある文化財の一つです。

福岡の古代の史跡を巡る

今回は、「ばしょ」の文化財である「史跡」の中から、玄界灘の対外交流による歴史が色濃く残る“古代の史跡（弥生・古墳時代）”をご紹介します。現在、福岡市で保存活用を進めている史跡は、国指定13件、県指定5件、市指定14件で、全体で32件（44ヶ所）あります。

国指定
(1993年)

史跡名：吉武高木遺跡
所在地：福岡市西区大字吉武194

弥生時代

見どころ：木棺墓や甕棺墓から「国」の成立過程を伝える紀元前2世紀ごろの重要な遺跡。中でも、鏡・武器・玉の3点が同時に出土した木棺墓は「最古の王墓」と呼ばれています。出土した遺物は福岡市博物館で展示されており、遺跡内の「やよいの風公園」では、展示や解説コーナーで詳しく知ることができます。



詳細は
こちら
 

国指定
(1975年)

史跡名：野方遺跡
所在地：福岡市西区野方5-11-25

弥生・古墳時代

見どころ：魏志倭人伝に記されている「倭国乱（2世紀後半）」の時代の環濠集落跡。弥生時代には大小2つの環濠集落が営まれ、古墳時代に300基以上の住居が造られたとされています。当時の生活が学べる「野方遺跡住居跡展示館」では、竪穴住居などを発掘した状態で見るすることができます。



詳細は
こちら
 

国指定
(1928年)

史跡名：丸隈山古墳
所在地：福岡市西区周船寺

古墳時代

見どころ：墳長85mと市内最大規模の前方後円墳。福岡市内で見学できる横穴式石室の中では唯一で、5世紀代の豪族の古墳とされています。毎年8月には、石室前の広場で福岡市の無形民俗文化財・宇田川原豊年獅子舞が奉納されます。



詳細は
こちら
 

市指定
(1991年)

史跡名：梅林古墳
所在地：福岡市城南区梅林五丁目234-1

古墳時代

見どころ：5世紀後半に造られたとされる墳長27mの小型の横穴式前方後円墳。1988年に発掘調査が行われたのち埋戻され、現在は「梅林古墳公園」として子どもたちの遊び場となっています。



詳細は
こちら
 

この夏に行ける！

日本初の西日本連携歴史イベント「弥生の御朱印巡り」

「弥生の御朱印巡り」は、弥生時代の魅力発信を目的に、西日本における弥生時代の主要遺跡など19遺跡・20施設が連携して開催しています。個性ある御朱印をコレクションすることで、各地の歴史・文化の特色を感じることができます。福岡市では、板付遺跡（博多区）が対象ですが、金隈遺跡（博多区）など、近隣にある弥生時代関連の遺跡も併せて訪れてみるのもオススメです。



板付遺跡の
マメ知識

日本最古の田んぼ！ 米を食べる文化の原点！

「板付遺跡（博多区）」は、弥生時代のはじまりを象徴する遺跡で、日本最古となる約2700年前の田んぼが発見されています。現在は環濠集落と水田が再現され、ガイダンス施設の板付遺跡弥生館では古代の服を着て農具に触れるなど、弥生人の生活を体験することができます！



金隈遺跡の
マメ知識

中国大陆や 南方文化との交流が分かる！

史跡公園「金隈遺跡（博多区）」は、福岡空港の近くにある共同墓地遺跡で、甕棺墓などが300基以上も発見されています。さらに、種子島からオーストラリアまでの海中にしか生息しないゴホウラ貝の腕輪、石剣や首飾り用の玉などが見つかったことから、中国大陆や南方文化との交流があったことも分かる非常に重要な文化財。ガイダンス施設の甕棺展示館では、発掘された甕棺墓を状態そのままに見学することもできます。



今回は弥生・古墳時代の史跡を中心にご紹介しました。この他にも、市内には様々な時代の史跡が数多く存在します。皆さんの事業所やお家など、身の回りにもこれまで気が付かなかった史跡があるはずです。身近な史跡を訪れ、福岡の歴史・文化に触れてみてはいかがでしょうか。

記事に関するお問い合わせ / 企画広報グループ TEL：092-441-1112
文化財やイベント情報に関するお問い合わせ / 福岡市文化財活用課 TEL：092-711-4666